

競技者注意事項

- 1 本競技会は2016年度日本陸上競技連盟競技規則、及び本大会規則により実施する。
- 2 練習は、競技場周辺の公園施設、及び、場外走路で行う。大会2日目はバックレーンを開放するが、場内指令の指示に従って練習を行うこと。公開練習時の使用要領は別に定める。
- 3 競技者招集について
 - (1) 招集場所は競技場正面玄関横に設ける。
 - (2) 招集開始時刻および招集完了時刻は、すべてプログラムの記載通りとする。
 - (3) 招集方法
 - ア. 一次点呼(○で囲む)は行わないが、該当競技を棄権する場合は事前に競技者係に申し出ること。リレー競技は招集完了時刻の1時間前までにオーダーを提出すること。
 - イ. 競技者は、出場種目の招集開始時刻には招集所に集合する。プログラム記載の招集開始時刻より点呼を始め、招集終了時刻には各競技場所への移動を開始する。
 - ウ. 招集場所での点呼に不在だった競技者については、当該種目を棄権したものとみなし処理する。
 - エ. 他の種目と兼ねて出場する競技者は、その旨競技者係に申し出て出場を確認する。
- 4 ナンバーカードについて
 - (1) ナンバーカードは交付された大きさのまま使用し、ユニフォームの胸背に確実につけること。ただし、跳躍競技については、胸・背のいずれかでよい。
 - (2)トラック競技出場者は、腰ナンバーカードを招集所で受け取り、パンツ右側後方につけること。リレー競技については第4走者のみ腰ナンバーカードをつけること。
- 5 競技場への入退場について
 - (1) 競技場への入場は、係員の誘導に従うこと。競技者以外は競技場へ立ち入ることはできない。なお、選手で入り口付近に荷物受け渡しエリアを設ける。
 - (2)トラック競技出場者は、競技終了後、腰ナンバーカードを返却し選手出入口より退場する。
 - (3) フィールド競技出場者の退場については、当該競技役員・場内指令の指示に従う。
- 6 走路順・試技順について
 - (1)トラック競技の走路順、フィールド競技の試技順はプログラム記載通りとする。
 - (2) 準決勝以降のトラック競技の組み合わせ、及び走路順は、番組編成員により厳正に抽選し決定する。
- 7 走高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。ただし、天候等により審判長の指示で変更もある。

	練習	1回目の高さおよびバーの上げ方
男子5年	90cm	95cm～以上5cmきざみ 1m20～以上3cmきざみ
男子6年	95cm	1m～以上5cmきざみ 1m30～以上3cmきざみ
女子5年	90cm	95cm～以上5cmきざみ 1m20～以上3cmきざみ
女子6年	90cm	95cm～以上5cmきざみ 1m30～以上3cmきざみ
- 8 競技に使用する用器具は、すべて主催者が用意したものを使用する。
- 9 各種目の8位までの入賞者は表彰を行うので、係員の指示により表彰場所へ移動する。
- 10 ケガや体調不良に関しては、応急処置のみ医務室にて行う。
- 11 競技場の使用について
 - (1) テントの設置は 17 日(日)の開門以降とする。前日にテントを設置した場合は必ず撤去すること。なお、競技場内のテントについては、大会期間中、各自の責任において設置したままでよいが、必ずたたんで風で飛ばないようにすること。場外については一部テントの設置を認めるが毎日撤去すること。
 - (2) 競技場および公園内にゴミ箱は設置していないので、ごみは各自責任をもって持ち帰ること。
 - (3) トイレは競技場スタンド横、公園内の他、総合体育館も利用可。

競技方法(大会要項記載)

- (1) スパイクの使用は自由とする。使用の場合ピンはオールウエザー対応の9mm以下の長さのものとする。
- (2) トラック競技のスタートは、同じ競技者が2回の不正スタートをした時、その競技者を失格とする。
- (3) 5・6年生の100m・80mH・4×100mRはクラウチングスタートとする。
- (4) 5・6年生の100mは準決勝を実施する。
- (5) 800m予選で1組の人数が9名を超えた場合、オープンスタートとする。
- (6) リレーにおけるテークオーバーゾーン手前からの助走マーク(10mの補助ゾーン)の使用を認める。マークのテープは主催者が準備したものを使用すること。また使用後のテープは必ずそのチームの選手が外すこと。
- (7) 80mハードルはハードルの高さ70cm、ハードル間7m、ハードルの台数9台、スタートから第1ハードルまで13m、最終ハードルからゴールまで11mとする。
- (8) 走高跳(はさみ跳び)は、マットへの着地は足裏からとし、背・腰などからの着地は無効試技とする。
- (9) ジャベリックボール投は全員3回の試技とする。主催者が用意した器具を使用する。やり投に準じて行うが、助走距離は15m以内とし、距離の計測は器具が最初に地面についた地点から計測する。羽を持つての投てき、回転投げを禁止する。
- (10) 砲丸投は、男女とも2.721kg以上(中学女子の規格)とする。

“日清食品カップ”第32回全国小学生陸上競技交流大会について

- (1) 全国大会の出場は4×100mRを含め1人1種目に限る(大会規定による)。
- (2) 4×100mRは6年生男女の優勝チームを代表とする。したがって、優勝チームの本大会の登録者(5名とも)の個人種目での全国大会の出場は認められない。また、登録選手は本大会登録選手とし変更は認められない。
- (3) 100mは5・6年生男女の優勝者、80mH・走高跳・走幅跳・ジャベリックボール投は6年生男女の優勝者を代表とする。
- (4) 4×100mR以外の複数種目で優勝した場合、どちらかの一方の種目を選択する。
- (5) 優勝者が代表とならない場合、次の順位の選手を代表とする(以下同様)。
- (6) 全国大会に出場する選手は、第34回北海道小学生中央陸上教室(主催北海道陸協 8月5日(金)・6日(土) 函館千代台)の参加を義務づける。

東日本都道府県小学生陸上競技交流大会について

東日本都道府県大会(8月6日(土) 函館千代台)の出場権は、本大会5・6年生男女3位までの入賞者(800m、1500mは8位まで)とする。